



水路を活用した観光拠点 「サンアントニオリバーウォーク」

サンアントニオリバーウォークは、1939年に建設された都市公園である。全長 2.4 マイル (3.9km) にわたり、ミシシッピ川の支流であるサンアントニオ川に沿って伸びている。建設当時は大雨による流域の浸水が課題となっていたが、環境整備を機に大規模な投資を段階的に行い、その後周辺の安全を確保するための法整備も併せて行ったことから、現在では最も安全なエリアとして、ホテルや店舗が立ち並び、活気に満ちた雰囲気が漂っている。夜は、全面ライトアップされ、クルーズ船や、レストランやバーでの音楽やダンスを楽しむことのできる、水辺利活用の好事例といえる。



世界の地域から

テキサス州 サンアントニオ市（米国）

工場跡地の再開発

サンアントニオ市では 1970 年代まで繊維産業などが栄えていたが、国際競争の激化や労働コストの上昇などから多くの工場が閉鎖された。放置された廃工場は治安の悪化を招くことから、市は 1990 年代以降本格的に対策を講じている。中でもパール地区は、工業エリアの風情を活かす形で公園や住宅、商業施設、文化施設を整備。新たな観光地として人気を集めている。特にパールブルワリーは 1883 年に創業し、当時、地域最大のビール醸造所として地域経済を支えていた経緯を持っていたこともあり、市は 2015 年に地元の歴史保存および観光振興を目的としてホテルへの改修を計画。現在はホテルとしての用途に限らず、工場の機器・什器を活かした内装のレストランや、地域の歴史を紹介する展示コーナーが併設されることで地区の観光振興のシンボルとなっている。



Photo by Clair NY